

## 国語総合（古典） 学習指導案

授業者	三浦 玲
対象クラス	1年F組
日時	令和元年12月11日（水）
場所	1年F組教室
教科書	『土佐日記』『門出』『帰京』 （『新訂 国語総合』第一学習社）

1 単元名 語句を関連付けて、表現の工夫を読み味わおう。

### 2 単元の目標

- (1) 書き手の創作意図を捉え、語句を関連付けて表現の工夫について考察しようとする。  
(関心・意欲・態度)
- (2) 書き手の創作意図を捉え、語句を関連付けて表現の工夫について考察する。  
(読む能力)〈指導事項の(ウ)〉
- (3) 作品中の諧謔表現や和歌の掛詞など、表現の工夫や特色を理解する。  
(知識・理解)〈指導事項の(エ)〉

### 3 取り上げる言語活動

言語活動：作品の結末についてグループで考えたことを発表する。

### 4 本単元で育成しようとする「ことばの力」

書き手の創作意図に迫り、語句を関連づけて表現の工夫を読み取る力

### 5 評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
書き手の創作意図を捉え、語句を関連付けて表現の工夫について考察しようとしている。	書き手の創作意図を捉え、語句を関連付けて表現の工夫について考察している。	作品中の諧謔表現や和歌の掛詞など、表現の工夫や特色を理解する。

### 6 生徒と単元

(1) 《生徒の実態》男子16名 女子19名 計35名

穏やかで規範意識が高い生徒が多く、予習・課題提出・板書ノートテイクの実践率は良い。また、ペアやグループでの活動も協働的であり、一生懸命取り組むことができる。一方で古典文法の習得が不完全であることが影響し古典を苦手とする生徒が多いことに加え、「発言は正解・正答でなければならない」という意識も高いためか、全体に問いかけた際の個々の発言は自信がなく遠慮がちである。要因は、単調な内容読解を行った学習過程だ。おそらく生徒たちにとって「古典といえば古典文法」という意識があると考えられる。もちろん伸長した資質・能力もあるが、「古典作品への関心を基に、書き手の考えや意図について考察すること」、その上で「自分のものの見方考え方を深めること」という意識を育む点に大きな課題を生んでしまった。新学習指導要領でも明文化されているように、「言葉による見方・

考え方」を働かせることで「深い学び」を実現する必要がある。協働的な学びを通して、語句を関連付けて「女性仮託」「諧謔表現」「皮肉・諷刺表現」など表現の工夫を味わうことに主眼をおきたい。そして、古典の「作品としての面白さ」を伝え合うことができる読み手への一步を踏み出せるよう促したい。

## (2) 《本単元（教材）について》

『土佐日記』は、日記といえば男性にとっては真名による記録・公的文書の側面が強かった平安時代において、「女性仮託」という手法で虚構の枠組みを読者に提示し、その時々の様子や心情を表現している作品である。そのため臨場感があり旅の記録な要素もあるが、「諧謔（滑稽）表現」・「諷刺・皮肉表現」・「女性仮託」のぼかし表現など読み手を意識した書き手の工夫が複数感じ取れる。一方で「帰京」は他日の章段にも描かれているとおりに、土佐国で亡くなった娘に対する心情が物語の「かなし」という端的な言葉で描かれているように見える。しかし改めて本文を読むと「帰京」は、①荒れ果てた家の中でも特に「松」に視線がとまる②そこに小松が生えていることを（「小松 子、待つ」）の掛詞にして和歌に詠む③「松」は千年生きるのに対し、娘はなくなってしまう、という三つの表現の工夫によって、娘への心情をより深く表現していると考えることができる。このように、男性が私的な内容を書く、という当時としては新たな形式で記された本作品は、読み手を意識した表現の工夫が多数含まれているため、一作品の中で語句を関連させて表現の工夫を深く味わう（読みを深化させる）力の育成が期待できると考え、本単元を設定した。

## (3) 《(1) (2) を受けた、本単元の指導について》

「なぜ作者は『とまれかうまれとく破りてむ』という結末を書いたのか」という作者の創作意図を捉えていく過程で、表現の工夫について自分の考えを深めさせたい。そのためにはまず第一に、書き手の考えや目的を捉えて、内容を解釈することが必要である。よって語句のつながり・表現の工夫を味わう基盤となる逐語訳を行う。特に諧謔表現については、語句からイメージするだけではなく、どう面白いのか他者に説明できるまで理解しておきたい。第二に、本文が「読み手を意識した表現の工夫を多分に含む」と言える根拠をもつことが必要である。そこで「なぜ女性仮託して書いたのか」という問いから、日記の常識、真名・仮名の使い分けなど、当時と現代とを比較し、共通点と相違点に気付くことで『土佐日記』が新しい挑戦に取り組んだ作品だと位置づけることを目指す。しかし、表現の工夫に気付いても、それが深い解釈につながらない生徒も予想される。そこで第三に、結末の一文について表現の工夫がどう効果的に働いているのかを考察する必要がある。語句を関連付けて表現の工夫を味わい、作品全体を俯瞰すると「虚構の枠組みを完結させるために有効である」「娘を失った悲しみを忘れたいという想いを強く感じ取るには有効である」といった異なる意見が出ると想定される。表現の工夫を考察し、作品の理解が一層深まることを期待したい。

## 7 全体計画（総時数 8 時間） 7 / 8

- ・ 1・2 校時 … 「門出」の現代語訳をし、女性仮託・諧謔・皮肉表現を分析・理解する。
- ・ 3・4 校時 … 「帰京」の現代語訳をし、本文から家の惨状を想像し、当時の日記のあり方から、作者はなぜ女性仮託して記録したか思考する。
- ・ 5・6 校時 … 「門出」と「帰京」を比較し、本文を根拠として作品の表現の工夫を分析する。
- ・ 7 校時（本時）… 表現の工夫とその効果を他者と共有・吟味し、結末の効果を評価する。
- ・ 8 校時 … 表現の工夫についての考察をまとめ、単元の振り返りを行う。

## 8 本時の計画（本時 7 / 8 時間）

### (1) 本時の目標

- ・ 表現の工夫に対する理解と関連付けながら、作者の創作意図についてまとめたことを、話し合ったり発表したりする活動を通して、自分の考えを深めることができる。

(2) 学習過程

	生徒の学習活動	学習形態	教師の支援	評価規準 (評価の方法)
導入 5分	1 本時の目標と流れを確認する。 学習目標 作者の創作意図を捉え、表現の工夫について自分の考えを深める。	全体		
展開 40分	学習課題 表現の工夫や特色に対する理解と関連付けながら、作者の創作意図について自分の考えをまとめ、発表しよう。	全体	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表資料を準備させ、自分でまとめたことを確認させる。</li> <li>なぜそのグループのまとめが良いかという根拠を明確にさせるよう注意を喚起する。</li> <li>なぜそのグループを評価したのかという理由を述べさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>表現の工夫について自分の考えを深めている。(読む能力)</li> <li>【評価方法】(話し合い、発表、ワークシート)</li> </ul>
	2 学習課題を確認する。 3 グループ内で意見交換しあう。 4 まなボードにまとめたグループの意見を黒板に貼る。 5 どのグループの意見を聞きたいか、グループで意見を吟味し、一つ選ぶ。 6 グループで集約した意見を発表し、質問・意見・感想などを交流する。	グループ  全体		
まとめ 5分	7 学習課題について全体で意見交換したことを踏まえて、気付いたことをワークシートにまとめる。	個	<ul style="list-style-type: none"> <li>本単元の学習を通して得たことを、ワークシートにまとめるよう助言する。</li> </ul>	